

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	15	実施計画番号	11	
事務事業名	廃棄物減量等推進員の委嘱		事業開始年度	
担当課名	まちづくり支援課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業		
背景や経緯等	町内会長に廃棄物減量等推進員を委嘱するとともに、同推進員への研修会等を開催することによりバックアップ体制を強化し、不適正排出や不法投棄の早期発見と未然防止に努める。			
事務事業の目的	廃棄物減量等推進員を委嘱し、市と町内会との協働により、ごみ集積所への不適正排出や不法投棄問題への解決に取り組み、環境美化の推進を図る。			
実施状況	ごみの適正な分別、収集指導等			

## 【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)	0	0	0
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	3	3	2
	活動日数(日)	60	60	90
	人件費(千円)	1,602,000	1,602,000	1,602,000
日日雇用職員	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	0	0	0
うち一般財源			
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		不法投棄回収量			
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	回収量		kg	68,980	65,530	65,530
	活動指標名②					
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
成果指標	成果指標名①		不法投棄回収量			
	計算式等		単位	24年度	25年度	26年度
	回収量	kg	目標値	68,980	65,530	65,530
			実績値	68,980	65,530	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	24年度	25年度	26年度
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	15
計画No	11

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">1 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">不法投棄に対する市民の関心は高く、早期発見、未然予防の観点から事業は妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	1 / 4	不法投棄に対する市民の関心は高く、早期発見、未然予防の観点から事業は妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	1 / 4								
不法投棄に対する市民の関心は高く、早期発見、未然予防の観点から事業は妥当である。										
② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	B	1							
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	C	0	1	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">5 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ごみの適正な分別に大きな効果が得られているが、不法投棄や粗大ゴミの不適正排出の場合、市が回収している状況であることから、当該制度のみでは不十分であり、市が適正なごみ排出の指導を行う必要がある。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	5 / 6	ごみの適正な分別に大きな効果が得られているが、不法投棄や粗大ゴミの不適正排出の場合、市が回収している状況であることから、当該制度のみでは不十分であり、市が適正なごみ排出の指導を行う必要がある。	
	成果向上の余地	5 / 6								
	ごみの適正な分別に大きな効果が得られているが、不法投棄や粗大ゴミの不適正排出の場合、市が回収している状況であることから、当該制度のみでは不十分であり、市が適正なごみ排出の指導を行う必要がある。									
④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	C	0							
⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">不法投棄回収のためコスト削減になじまない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	不法投棄回収のためコスト削減になじまない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	不法投棄回収のためコスト削減になじまない。									
⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">不法投棄回収のため受益者負担金適正化の検討になじまない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	不法投棄回収のため受益者負担金適正化の検討になじまない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
不法投棄回収のため受益者負担金適正化の検討になじまない。										
⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
<b>現在の適性</b>					<b>14 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>6 / 20</b>			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **14** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **6** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

<b>方向性の理由</b> ごみの減量及び不適正排出、不法投棄の早期発見、未然防止は大きな課題であり、現状を維持しながらも、引き続き一層効果のある手法を検討しなければならない。
<b>今後の具体的な取組方策と狙う効果</b> より一層効果のある手法を検討していく。